

1. 構想の概要

【構想の名称】

トランスポーダー大学がひらく高等教育と世界の未来

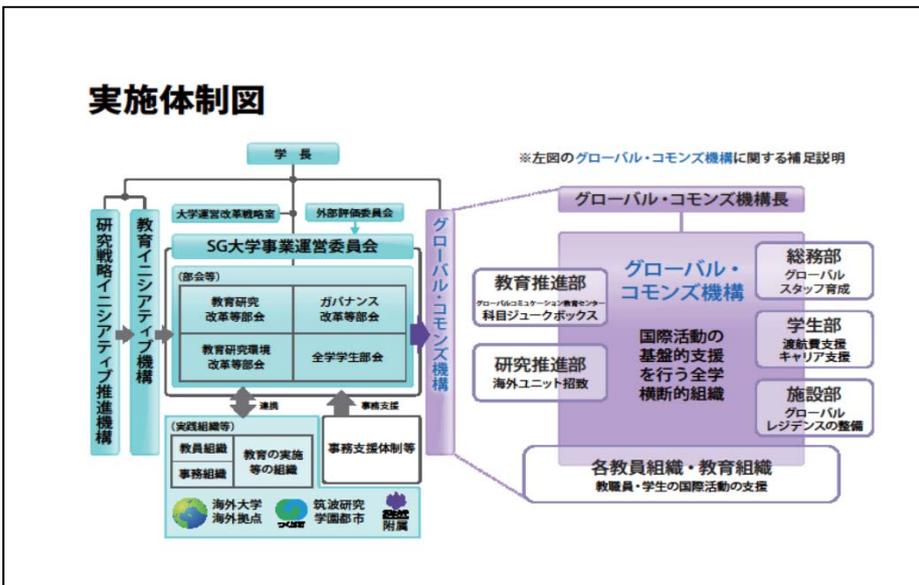
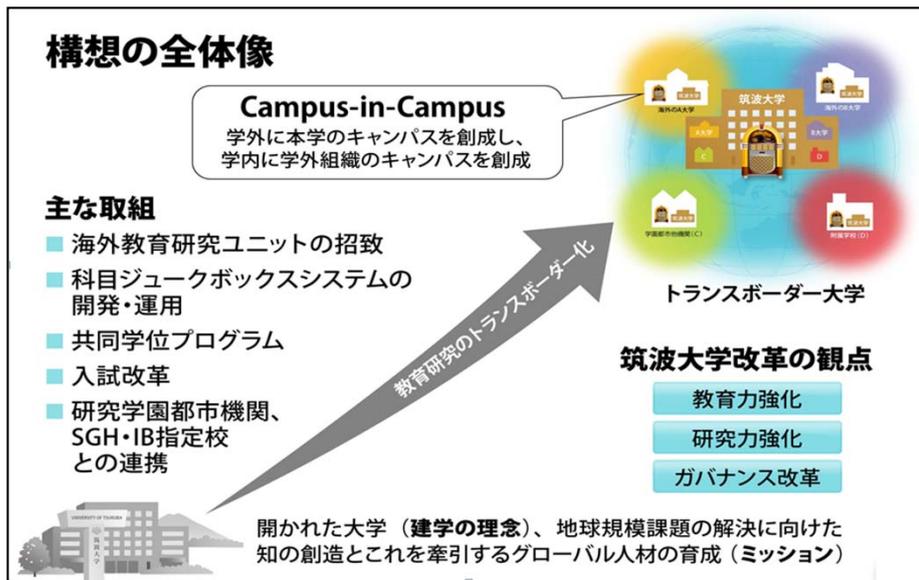
【SGUの取組を通じて目指す大学の将来像】

- 学生・教員・職員のモビリティを飛躍的に高め、誰もが国境や機関の壁を越えた武者修行に挑める大学。
- 国境や機関の壁を越え、世界中の資源を積極的に活用することにより、世界トップレベルの教育と研究を行う大学。
- 「内向き」とも評される我が国の高等教育と社会を世界に開き、率先して世界の未来を切り拓く大学。

【構想の概要】

2023年までに13の海外パートナー大学内に本学のCampus-in-Campusを創成し、学内に13校のCampus-in-Campusを創成する。これによりパートナー大学と相補的、互恵的に教育研究資源を共有し、組織の壁や国境を越えて学生や教職員が自由に行き来できるトランスポーダーな環境を実現する。主な取り組みは下記の通り。

- ①世界トップレベルの研究を行う海外の研究ユニットを本学に招致し、共同研究と本学学生の研究指導を実施する。
- ②本学とパートナー大学が授業科目を出し合って「科目ジュークボックスシステム」を構築し、学生がどの大学からでも自校の科目として授業が履修できるようにする。
- ③科目ジュークボックスシステムを活用し、海外パートナー大学との共同学位プログラムを開設する。
- ④国際バカロレア特別入試、スーパーグローバルハイスクール指定校入試、4技能を問う外部英語検定試験などを全学的に導入し、グローバル志向の高校生を国内外から積極的に受け入れるとともに、こうした学生に対応した学位プログラムを整備する。
- ⑤筑波研究学園都市の研究機関、本学の附属学校、スーパーグローバルハイスクール、国際バカロレア指定校とも、海外パートナー大学と同様の連携体制を整える。



【10年間の計画概要】

1 Campus-in-Campus(CiC)の創成について

CiC構想は本学と海外の協定校及び本学と連携する産学官拠点のキャンパスを相互にキャンパス内に取込み、その中で本学とパートナー大学の学生、教員、研究者、職員が活動する研究教育環境を双方向で共有する仕組みである。従前の海外分校、交換留学、eラーニングや出張講義による授業共有とは異なり、実体的な環境下で常時、持続的かつ全学規模にわたる双方向の協働の場を展開するジョイントベンチャー型の取組みと言える。2023年までに13校のCiCを創成する。

2 教育研究ユニット招致について

世界トップレベルの研究を行っている海外の研究室や研究チームを本学に招致し、共同研究ならびに本学学生の研究指導を行う。海外研究機関に勤める著名研究者をPI(責任指導教員)として本学でも雇用し(ジョイント・アポイントメント)、副PIは任期付き助教/准教授として本学に常駐する。スポーツ科学等の本学が強みを持つ分野については、本学の教育研究ユニットを協定校に設置し、双方向の協働を促す。教育研究ユニットが提供する科目を科目ジュークボックスに取組むことにより、最先端の研究に触れ指導を受ける機会を学生に提供する。2023年までに延べ9ユニットを招致する。

3 科目ジュークボックスシステムについて

科目ジュークボックスシステムは、本学及び海外の各パートナー大学がそれぞれの在籍生ならびにパートナー大学の学生が履修可能な授業を指定し、「ジュークボックス」のように共通のナンバリングに基づいて科目一覧、シラバスを掲載し、いずれの大学から提供された科目も自分の大学の科目として学生が履修できるシステムである。成績評価および単位認定は、科目提供側から示された成績評価をもとに、その学生が本来所属する各大学において行う。2023年までに13校のCiCから科目ジュークボックスに500科目を登録し、本学とパートナー大学の学生に提供する。

4 科目ジュークボックスを活用した共同学位プログラムについて

CiCのパートナー大学と科目ジュークボックスシステムを活用した双方向学生交流を推進する。2023年までに科目ジュークボックスを活用して学位を取得できるコースを12コース開設する。

5 入試改革及び学位プログラムの新設について

国際バカロレア特別入試、スーパーグローバルハイスクール指定校入試、4技能を問う外部英語検定試験などを全学的に導入して、グローバル志向の高校生を国内外から積極的に受入れるために、2023年までに外国語による科目数を全授業科目数全体の33%(学群・大学院の合計)とするとともに、外国語のみで卒業できるコースの設置数を全卒業コースの設置数全体の28%とする。

6 国内機関との連携について

連携する筑波研究学園都市の機関や企業もCiCの場として、研究学園都市全体を巻き込んで展開する。これにより街全体の「国際性の日常化」を推進する。また、附属学校ならびに研究学園都市市内のスーパーグローバルハイスクール(SGH)、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)指定校にも科目ジュークボックスを一部開放し、中等教育の国際化・高度化に寄与するとともに、高大連携による教育プログラム実施の基盤として活用する。

【特徴的な取組(国際化、ガバナンス改革、教育改革等)】

- ① 柔軟で多様な人事制度の構築とすぐれた教職員の確保・育成を目指し、主に外部資金によって任用される教員を対象に、年俸制の更なる拡大を図り2023年までに全専任教員数に占める年俸制適用教員数の割合を40%とする。
- ② 日本人、外国人を問わずに学生と教職員が世界の一員であることを日常的に実感することができる「国際性の日常化(語学力維持・向上)について(基本方針)」に基づき、職員が外国語によって留学生や外国人教員とのコミュニケーションが図られるよう2023年までに全専任職員数のうち、外国語基準(TOEIC500点)を満たす専任職員の割合を37%とする。
- ③ 入学者選抜方法については、GTEC-CBT、TOEFL、TEAP等の英語4技能(読む、聞く、書く、話す)を問う外部英語検定試験を全学的に導入することを2015年3月に公表し、2017年2月実施に向けて教育組織ごとに導入形態等を決定することとしているが、2023年までにはすべての学群入学定員数に対してTOEFL等外部試験の入試への活用を図る。

【海外の大学との連携の推進方策】

すでに国立台湾大学、ボルドー大学、カリフォルニア大学アーバイン校がCampus-in-Campus構想への参画を表明しており、今後さらなる拡充に向けて、複数の大学と協議中である。今後は、本学が有する12か国・地域13か所(ドイツ、フランス、ベトナム、インドネシア、マレーシア、中国、チュニジア、ウズベキスタン、カザフスタン、アメリカ、ブラジル、台湾)の海外拠点(オフィス)と海外協定校(2015年5月現在、60か国・地域、299の大学・研究所・国際機関と交流協定を締結)を軸にパートナー大学の拡充を図りながら、パートナー大学と相補的、互恵的に教育研究資源を共有し、組織の壁や国境を越えて学生や教職員が自由に行き来できるトランスボーダーな教育研究環境の実現を図る。

2. 取組内容の進捗状況(平成26年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

1. 海外教育研究」ユニットの招致

人文社会系海外教育研究ユニットとして、ハンブルグ大学アジア・アフリカ研究所インド学チベット学研究所の研究者を招致した。また、医学医療系海外教育研究ユニットでは、分子細胞生物学の世界的権威であるライデン大学メディカルセンター分子細胞生物学研究室から研究者を招致して、共同研究を実施した。

2. Campus-in-Campus(CiC)の教育研究環境整備

海外3大学(国立台湾大学、ボルドー大学、カリフォルニア大学アーバイン校)にCiCを開設する準備を整えた。また、平成27年2月に上述3大学との実務者ミーティングを開催して、CiCを実現する上での必須条件について検討を行い、協定内容を具体化させた。

3. キックオフシンポジウムの開催

平成27年2月に「大学の〈グローバルプレゼンス〉を考える」と題するキックオフシンポジウムを開催し、CiC構想を中心とした本事業における本学の取組みと意義を広く社会に普及する活動を行った。

具体的には、パートナー大学(国立台湾大学、ボルドー大学、カリフォルニア大学アーバイン校)を含む国内外の有識者を招き、講演及び公開討論を開催した。これを通して日本の高等教育機関がグローバル社会におけるプレゼンスを高めるために今何をすべきかについて意見を交わし、問題意識の共有と強固なネットワークの構築を図った。

併せて、外部評価委員会を開催し、国内外の有識者から本学の取組みに対するレビューを受けた。



〈キックオフシンポジウムで構想を説明する
永田学長〉

ガバナンス改革関連

1. スーパーグローバル大学事業推進室の設置

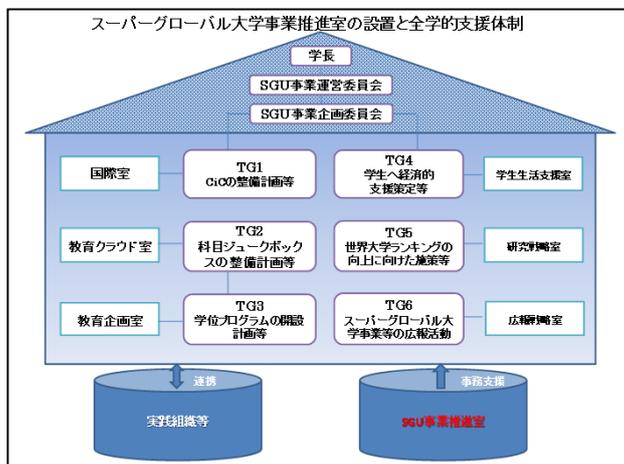
平成26年10月1日にスーパーグローバル大学事業準備室を改めスーパーグローバル大学事業推進室を設置した。室長及び職員2名を配置し、本事業の全学的な支援を開始した。

2. 言語教育の充実に向けた体制整備

外国語センターと留学生センター日本語教育部門の機能強化を統合した新センターであるグローバルコミュニケーション教育センターの設置準備(平成27年4月設置)を行った。これにより、日本人学生と外国人留学生がグローバル化に対応した語学力とコミュニケーション能力身につけるための体制整備を行った。

3. 外国人教員を積極的に採用

教育研究ユニット招致等により海外教育研究ユニット教員を採用した。



教育改革関連

1. 科目ジュークボックスシステムの構築

科目ジュークボックスシステムの構築に向けて準備を行うとともに、本学からジュークボックスに提供可能な科目について精査した(精査された科目は平成27年度中にウェブで公開予定)。

また、上述のパートナー大学との実務者ミーティングにおいて、海外からもジュークボックス科目に科目が提供されることの確認を行った。

2. 新たな教育プログラムの開発

地球規模課題に取り組むセンスとスキル、課題解決型学修(PBL)、海外留学、Late specializationを基軸とした「オールラウンド型学士学位プログラム」、主に外国人学生を対象とし、高い日本語運用能力と日本社会・文化の深い理解を基盤に、芸術、ケアサイエンス、日本語教育、農業分野の専門性を身に付けさせる「ジャパン・エキスパート学士学位プログラム」の開発に向けて、プログラムの趣旨、コーディネータ教員の配置、カリキュラム編成、事務体制や準備委員会設置のための検討を行った。

3. グローバル入試の実施

グローバル人材育成強化のため、国際バカロレア特別入試を実施した。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

1. Campus-in-Campusの数について

国立台湾大学(NTU)、ボルドー大学(UOB)、カリフォルニア大学アーバイン校(UCI)の3大学にCampus-in-Campusを開設する準備を整えるため、関係者との実務者ミーティングを行った。



国立台湾大学筑波大学オフィスでCiC連携について打合せを行う(左からUCIのDr.Lander, 筑波大学の大庭准教授、NTUのDr.Lee)。

2. 科目ジュークボックスの科目数について

本学で提供可能なジュークボックス科目として、学群70科目、大学院67科目の合計137科目を精査し、平成27年度に公開を予定している。

3. 外国人留学生の正規生の人数について

本学独自の奨学金や留学生後援会による支援事業を実施し、留学生の正規課程入学者の獲得を図った。

■ 国際的評価の向上につながる取組

1. 教育による国際的評価の向上

国際的互換性を有する学位プログラム制への移行を開始し、国際就業力をもつグローバルイノベーション人材を輩出する新たな学位プログラム(オールラウンド型学士課程プログラム、ジャパン・エキスパート学士プログラム)の開設に向けてコアメンバーによる検討を行い、開設準備室の設置準備を行った。

また、日本語版チューニングシステムの構築に向け、チューニングプロジェクト事業推進委員会を設置し、専任教員の採用準備及び支援スタッフの採用、国内外の教育システムや欧州のチューニング制度に関する情報収集、FD研修会の開催等、チューニングの調査・研究に係る基盤を整備した。

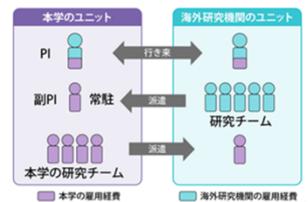
さらには、国際バカロレア特別入試を含むグローバル入試を実施した。

海外教育研究ユニット招致

海外著名研究者(PI)を本学と海外研究機関との間でクロスアポイントメントにより雇用

PIは、本学に一定期間滞在し、本学の教授として研究室を運営

- 本学に常駐する副PIを任期付き教員として雇用
- 本学の研究グループから海外ラボへ研究者を派遣



2. 研究による国際的評価の向上

国際的に卓越した研究として、国際統合睡眠医科学研究機構、サイバニクス研究センター、藻類バイオマス・エネルギーシステム研究拠点、生命領域学際研究センターにおいて各分野の研究を推進した。

研究力の重点的な強化策として、研究戦略イニシアティブ推進機構による重点研究センターや学術センター等の支援及び国際テニュアトラック等の実施、海外教育研究ユニット招致制度の新設等を実施した。

基盤的な強化策として、リサーチ・アドミニストレーター増員、承継職員化及び部局配置、産業総合研究所と筑波大学の合わせ技ファンドや特別共同研究事業の創設などのほか、オープンファシリティー推進室による先端研究機器の供用化を推進した。

3. ガバナンス改革

学長のリーダーシップにより資源配分の面では、平成27年度の予算方針を「部分最適」から「全体最適」へシフトするとともに、人事面では、新たな若手・女性・外国人の3要件を満たす教員の増加を目的に、全学戦略枠を配置した。

【海外の大学との連携の実績】

Campus-in-Campus(CiC)構想の実現に向けて、重点校である国立台湾大学(NTU)内に筑波大学台湾オフィス、カリフォルニア大学アーバイン校(UCI)内に筑波大学アーバインオフィス、サンパウロ大学(USP)内に筑波大学サンパウロオフィスが開設されたことを受け、NTU、UCI及びUSPから代表者を招き、筑波オフィス(相互オフィス)の開所式を行い、さらなる相互交流の拠点となることが期待される。

また、平成27年3月には本学サンパウロ事務所を設置し、現在申請中の平成27年度大学教育再生推進費「大学の世界展開力強化事業～中南米等との大学間交流形成支援～」と連携しながら、CiC構想の中南米地域への拡大に向けた準備を整えた。

■ 自由記述欄

1. スーパーグローバル大学事業ショーケースの開催

2015年2月15日に本学キックオフシンポジウムの一環として、採択大学を対象としたショーケースを実施し、参加29大学の構想を紹介することで国内外の大学関係者や有識者等との情報共有と意見交換の場とするともに、本学のみならずSGU事業採択大学の意義と各大学の取組みについて、社会に発信する機会を提供した。



〈スーパーグローバル大学事業ショーケースで参加大学の構想を紹介〉

3. 取組内容の進捗状況(平成27年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

1. Campus-in-Campus(CiC)の教育研究環境整備

平成27年9月30日にボルドー大学(UBx)及び国立台湾大学(NTU)とCiCに関する協定の調印式が執り行われた。

また、筑波大学内にOverseas Commons(CiC Tsukuba Office)として、今後協定締結を予定しているカリフォルニア大学アーバイン校(UCI)及びサンパウロ大学を含む4大学のオフィススペースが設置された。開所式にはUBxからManuel Tunon de Lara学長、NTUからLuisa Shu-Ying Chang副学長、UCIからJames W. Hicks副学長が出席して、記念のテープカットが執り行われた。



2. グローバルレジデンス整備事業

グローバル人材育成及び「国際性の日常化」を促進し、日本に居ながら異文化交流ができる住環境を提供することが本事業の目的である。この目的の達成に向け、平成27年8月にPFI事業者(つくばグローバルアカデミックサービス株、母体は大和リースグループ)と契約を結んだ。これにより、キャンパス内の宿泊施設が段階的に拡張され、日本人学生の留学生との交流がいっそう促進されるのみならず、留学生の受入数拡大に向けた環境が整備される。本計画の皮切りとして、平成28年4月に短期留学・ショートステイ宿舎(354室)の運用を開始する。

3. CiC実務者会合の開催

CiC構想の実現に向け、平成27年9月にボルドー大学、国立台湾大学、カリフォルニア大学アーバイン校及び本学の関係者が一堂に会して、CiCオフィス及び科目ジュークボックスの運営方法と今後の具体的な進め方について議論を交わした。

ガバナンス改革関連

1. 大学戦略室の設置準備

大学戦略室は、10年後の国立大学を取り巻く状況を確認し、国立大学政策の動向、国立大学個々の財政運営に大きな影響を与える施策、方針等を予測しながら、世界レベルの研究大学としての戦略モデルを模索することを目的として、平成28年4月の設置を目指している。平成27年度は、4月に担当の大学執行役員を任命した上で、同室の設置に向けた規定整備及び予備検討を行った。

2. 全学年俸制教員評価の実施

平成26年10月に年俸制を適用する大学教員の業績評価を実施するための「全学年俸制教員評価実施委員会要項」を定め、平成27年度に初めて全学の年俸制教員評価を実施(対象者102名)し、評価結果を年俸に反映させた。

3. 事務職員の高度化の取組

事務職員の語学力向上を目指し、「レベル別英会話研修」、「留学生による英語チューター研修」、「eラーニング英語研修」を実施したほか、TOEIC受検者に受検料の補助を行った。

また、語学力水準の高い事務職員を対象として、海外での短期研修や学内留学生対応部門における実務研修を経験させるなどして、事務職員の高度化に向けた支援を行った。

併せて、グローバル人材を求める経済界からの要請、アジア英語の認知度向上など、英語を取り巻く環境変化に関する特別セミナーを開催した。

教育改革関連

1. 科目ジュークボックスシステムの構築

科目ジュークボックスは、筑波大学と海外のCiCパートナー大学において学生が履修可能な授業科目を音楽のジュークボックスのように選択することを可能にするウェブシステムで、平成28年3月に公開された。現状では本学側で提供する約100科目が掲載されており、平成28年度には海外パートナー大学の科目も追加される予定である。

2. 新たな教育プログラムの構築

「Japan-Expert(学士)学位プログラム」は、日本の文化・社会を理解し、日本マインドを持った留学生の育成を目的として、4コース(アグロノミスト養成コース、ヘルスケアコース、日本芸術コース、日本語教師養成コース)を開設する。平成28年10月の学生受入れを目指し、平成28年3月に学生募集を開始した。

3. グローバル入試の実施

グローバル人材育成強化のため、私費外国人留学生入試(志願者124名/入学者23名)及び国際バカロレア特別入試(志願者13名/入学者3名)を実施した。



日本マインドを持った留学生育成のための学士課程プログラム
Japan Expert Program **入学者募集!**
日本が好きな、日本で学びたい、日本で働きたい
スペシャリストを育成する4つのコース
■アグロノミスト養成コース
■ヘルスケアコース
■日本芸術コース
■日本語教師養成コース
スケジュール
日本滞在が得意
IELTS 5.5以上
TOEFL iBT 20以上
入学後半年間集中的に
日本語を勉強します
筑波大学
University of Tsukuba

〈Japan-Expertプログラムチラシ〉

■ 大学独自の成果指標と達成目標

1. Campus-in-Campusの数について

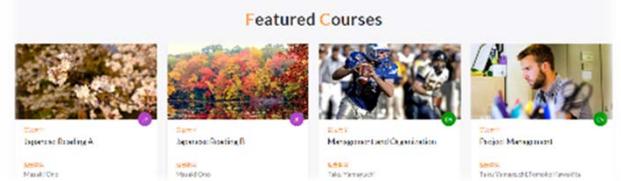
国立台湾大学及びボルドー大学の2大学とCampus-in-Campusに係る包括協定を平成27年9月30日に締結した。

カリフォルニア大学アーバイン校とは条件面での折衝に時間を要したため、平成28年4月に締結を予定している。

2. 科目ジュークボックスの科目数について

本学で提供可能なジュークボックス科目として約100科目をジュークボックスシステムに掲載し、平成28年3月15日に公開した。

平成28年度には海外パートナー大学から提供される科目も掲載される見通しである。



〈科目ジュークボックスシステムのトップページ〉

■ 国際的評価の向上につながる取組(タイプAのみ)

1. つくばグローバルサイエンスウィーク2015(TGSW2015)の開催

「つくばグローバルサイエンスウィーク2015(TGSW2015)」は、今年で6回目を迎え、世界25か国、90機関から200名近い発表者と、1,200名を越す来場者を迎え、9月28日から30日に3日間、つくば市内で行われた。

会期中、メインセッションのひとつである「つくば国際スポーツ科学アカデミー(TIAS)」を中心に企画実施された「オリンピック・パラリンピック・ムーブメントへの参画」や、第1回海外同窓会ネットワーク年次総会も併せて実施した。

また、つくばの地に結集した研究者コミュニティによる地球規模課題の克服への決意、多様性や平等の尊重、ならびに人と自然との共生といったオリンピック・パラリンピック・ムーブメントの理念との通底する価値観を共有する次世代の人材育成に対する誓いとして、「TSUKUBA2015」を公表して全日程を終えた。



TGSW2015開催中の様子

【海外の大学との連携の実績(タイプAのみ)】

平成27年度には、研究重点型ユニットとして「Aarhus大学センター研究室(デンマーク)」(数理工質系)及び「Plymouth大学海洋酸化性・国際海洋フィールド学研究室(英国)」の2ユニットを、教育重点型ユニットでは本学の数理工質科学研究科とダブルディグリープログラムの開設を目指してグルノーブル大学(フランス)から招聘した(～平成31年度)。

これにより、平成26年度から平成30年度まで3ユニット、平成27年度から平成31年度まで3ユニットの6ユニット招聘に至り、平成28年度末までに到達予定の6ユニットに1年前倒して達成した。

■ 自由記述欄(取組について自由にアピールしてください)

スーパーグローバル大学事業に係る学生支援制度の整備

本学独自の奨学金制度である「筑波大学海外留学支援制度(はばたけ! 筑大生)」を発足させ、海外学会等参加支援プログラム(203名)、国際交流協定交換留学支援プログラム(6名)によって日本人学生の海外留学機会を拡大するとともに、平成28年度からは新たにCiCパートナー大学との交流に基づく奨学金支援プログラムを開始して、CiCとの交流を促進するための環境を整備した。

また、学生の危機管理体制を一元管理することを目指し、オンラインによる「海外渡航届」システムを導入した。これにより、海外での災害・テロ・感染症発生等の緊急事態が発生した際、当該地域へ渡航している学生の安否確認を迅速に行うことに寄与した。

筑波大学海外留学支援事業の平成27年12月期集

はばたけ! 筑大生

- ① 国際交流協定校 交換留学支援プログラム
 - 対象: 海外の大学等との間で締結された学生渡航定に基づく留学
 - 活動: 6か月以内(平成28年4月～平成29年3月)
 - 旅費の支援: 滞在費の一部として月額上限6万円
- ② キャンパス イン キャンパス(CiC)等 支援プログラム
 - 対象: デュアルディグリープログラム(DDP)を実施する大学との間で締結された定章に基づき、海外の大学で学修、調査・研究を行う
 - 期間: 平成28年4月～平成29年3月
 - 旅費の支援: 上限15万円
 - ※キャンパス イン キャンパス(CiC)は4月期募集のみ
- ③ 海外武者修行 支援プログラム
 - ※4月期募集予定
- ④ 海外学会等参加 支援プログラム
 - 対象: 海外で開催される国際学会、セミナー、シンポジウム、研究会等へ出席し、研究発表を行う
 - 活動: 2週間以内(平成28年4月～6月)
 - 旅費の支援: 上限15万円
- ⑤ 留学研修等参加 支援プログラム
 - ※4月期募集予定

申請〆切: 平成28年2月24日(水)

申請書提出先: 各支援室

対象: 学群または大学院の正規課程に在籍する者、問合せ先: 学生部学生交流課(内線6067) 詳細は募集要項を参照してください。

URL: <http://www.tsukuba.ac.jp/global/scholarship.html>

予告: 平成28年7月以降の選考については、5つの支援プログラム全てを平成28年度4月期募集として実施する予定です。ホームページを注視してください。

〈はばたけ! 筑大生チラシ〉

4. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【筑波大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

1. Campus-in-Campus (CiC) 協定校の拡大

新たなCiC協定校として、サンパウロ大学、マレーシア工科大学、カリフォルニア大学アーバイン校とCiC協定を締結するとともに、平成29年9月に開催されたTsukuba Global Science Week (TGSW) においてCiC運営委員会およびCiC実務者会合を開催した。

これにより、CiCの対象となる国・地域が2.5倍に増えるとともに、CiCの枠組みにおける学生・教職員・研究者等の交流が一層拡大することが期待される。

(CiC協定校一覧：累計5校)

- ・ サンパウロ大学 (H28.9～)
- ・ マレーシア工科大学 (H28.9～)
- ・ カリフォルニア大学アーバイン校 (H28.4～)
- ・ 国立台湾大学 (H27.9～)
- ・ ボルドー大学 (H27.9～)

2. グローバル・ヴィレッジのオープン

日本人学生と外国人留学生が混住するルームシェア型の学生宿舎の施工を3月に完了(310室)し、グローバル・ヴィレッジとしてオープンした。

なお、グローバル・ヴィレッジは、大和グループとのPFI事業として新築したもので、平成30年4月にはさらに190室が増設される予定である。

ガバナンス改革関連

1. 筑波大学スーパーグローバル大学事業外部評価委員会の開催

平成28年9月、筑波大学スーパーグローバル大学事業外部評価委員会を設置し、平成29年2月に外部有識者で構成される5名の委員からヒアリングを実施した。ヒアリングの結果、本事業による大幅な国際性の増大やトップマネジメントによる事業運営等について高い評価を受けるとともに、今後の事業改善に資する数多くの建設的な助言を得ることができた。

2. グローバル・スタッフの育成

グローバル・スタッフ育成室による各種英語研修・SDセミナー等を強化(H28参加実績：述べ400人)するとともに、短期海外業務研修等によりCiC協定校を含む海外の大学等へ職員を派遣した(H28派遣実績：12人)。

また、CiC協定校との間では双方向の職員交流を活性化すべく、平成29年2月にサンパウロ大学から職員を受け入れて研修を実施したほか、同年5月にはErasmus+の協定を活用してボルドー大学からの職員を受入予定である。

教育改革関連

1. 科目ジュークボックスを活用した学生交流の促進

平成28年9月に開催したCiC実務者会合において、科目ジュークボックスを活用した学生交流の手続きについてCiC協定校間で合意した。また、同年10月にボルドー大学の93科目、翌年2月に国立台湾大学の169科目を登録し、筑波大学の142科目と合わせて合計400科目を越えた。さらに、3月より、これらの科目履修を目的とした留学を希望する学生の募集を3大学で開始した。

加えて、CiC協定校への留学促進を図るべく、CiC協定校と共同でプロモーションビデオを制作・公開するとともに、CiCに特化したガイドブック、リーフレット、ポスター等を制作・配布した。



TGSWでの調印式 (H28.9)



グローバル・ヴィレッジ



The importance of living and studying abroad

CiCプロモーション・ビデオ

- The whole world is your campus -

<https://www.youtube.com/watch?v=buNlg0Iyu84>

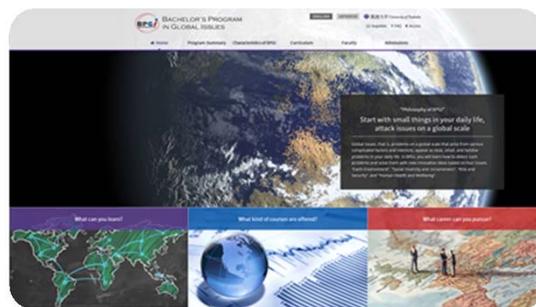
教育改革関連(続き)

2. 新たな学位プログラムの開始

(1) 地球規模課題学位プログラム(学士)の開設

分野を超えて地球規模課題に取り組むことのできるグローバル人材を養成するため、**全学横断・文理融合型の地球規模課題学位プログラム(学士)**を新たに開設し、平成29年3月より学生募集を開始した。(H29.10～学生受入予定)

本プログラムでは、**Project/Problem-based Learning (PBL)**型の学修を中心とし、**全て英語により実施**するとともに、本学のCampus-with-Campus協定校である**国際基督教大学**で半年間のリベラルアーツ教育を行う予定である。



地球規模課題学位プログラム(学士) WEBサイト

<http://bpqi.tsukuba.ac.jp/>

(2) Japan-Expert(学士)プログラム第1期生の入学

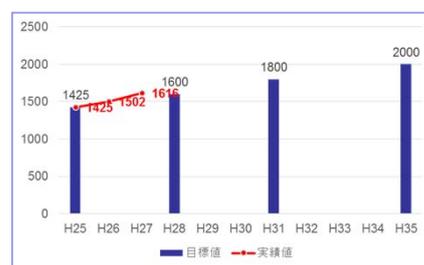
日本の文化・社会を理解し、日本マインドを持った留学生の育成を目的としたJapan-Expert(学士)プログラムについて、平成28年10月に第1期生となる6名が入学した。(国籍:中国3、カンボジア1、ミャンマー1、ドイツ1)

本プログラムでは、出願要件としての日本語能力の基準を緩和する一方で、入学後半年間の集中日本語授業を行うことにより、日本語能力を向上させ、その後はそれぞれの専門分野を日本語で学ぶことができるカリキュラムとなっている。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ 外国人研究者の受入数

外国人研究者の受入数については、Tsukuba Global Science Weekの開催・規模拡大等の成果もあり、**毎年100人程度の規模で増加**。目標を大きく超えて推移している。



外国人研究者受入数(通年)

■ 国際的評価の向上につながる取組

1. Times Higher Education社「最も国際的な大学ランキング」世界141位(国内2位)

本事業による国際性の増大の成果もあり、平成29年2月にTimes Higher Education社が公表した「**最も国際的な大学ランキング**」において、**世界141位にランクイン**した。

国内では東京大学に次いで2位となったが、評判調査に係る指標を除く客観的な指標(外国人教員、外国人留学生、国際共著論文に係るもの)では国内トップのスコア(37.1pt)を獲得した。

2. 海外教育研究ユニット招致報告会の開催

平成29年3月、これまでに招致した**全6ユニット**が一堂に会し、**本学での教育研究活動に係る取組状況と成果を発表**する「海外教育研究ユニット招致報告会」を開催した(英語で実施。学内外から約70名が参加)。本報告会によって各ユニット間でグッドプラクティスを共有することができた。加えて、全学からの参加者を得たことで、今後のユニット招致の一層の推進が期待できる。



海外教育研究ユニット招致報告会ポスター

【海外の大学との連携の実績】

○ Campus-in-Campus協定校との連携深化

平成28年度より、新たにCiC協定校であるカリフォルニア大学アーバイン校から**海外教育研究ユニットを招致(体育科学分野)**し、従前からの教育重点型、研究重点型とは異なるCiC型として位置付けた。これにより、今後他のCiC協定校からのユニット招致も促進することで、**より包括的なCiC協定校との交流が加速**することが期待される。

■ 自由記述欄

○ 筑波大学海外留学支援事業(はばたけ!筑大生)による海外派遣者数の飛躍的な増加(初の年間2,000人超え)

平成27年度に引き続き、学長裁量経費を財源に「はばたけ!筑大生」奨学金制度を運用し、「**海外武者修行**」を含む多様な留学を推進(H28予算額:約1億円、H28採択実績842人)した結果、**全体の海外派遣者数が2,145人となり、初めて2,000人(年間)を上回った**。

また、「海外武者修行支援プログラム」に参加した学生グループについて**帰国報告会を3月に開催**し、学長をはじめとする教職員や在学生の前でプログラム参加学生がプレゼンテーションを行った。本報告会では、**プログラム参加学生の留学成果の確認とともに、他の学生の留学への興味関心を高める**ことを目的としており、今後の加速度的な海外派遣者数の増加が期待できる。



「海外武者修行支援プログラム」帰国報告会の様子

5. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【筑波大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

1. Campus-in-Campus (CiC) 協定校を7校に拡大

新たに、ユトレヒト大学、グルノーブル大学とCiC協定を締結した。これにより、CiC協定校は計7校へと拡大し、CiCの枠組みを通じた学生交流、教職員・研究者交流の一層の進展が期待される。

2. CiC運営委員会 / 実務者会合を開催

つくばグローバルサイエンスウィーク(TGSW)期間中の9月26日に、CiC協定校の関係者と本学関係者による**運営委員会及び実務者会合を開催し**、本構想の取組状況を踏まえ、更なるモビリティの向上に向けて意見交換を行った。

3. SGU中間評価でS評価を獲得

平成29年度に実施された第1回中間評価において、「Campus-in-Campus」や「海外教育研究ユニット招致」をはじめとする本学の取組が高く評価され、**5段階評価で最高の「S評価」**を獲得した。



Campus-in-Campus協定校マップ(2018年3月現在:7校)

ガバナンス改革関連

1. 大学経営改革室の設置

大学戦略室を発展的に改組再編し、平成30年4月に**大学経営改革室**を設置すべく、規定整備及び予備検討を行った。同室は、教職協働の学内委員に財界などの外部有識者を加えた学長直属の諮問組織として設置され、将来の経営基盤を強化するために必要な具体的戦略の検討と提言を行う。同室の設置を通じて、大学経営改革を中長期・短期の両面において戦略的に、一貫性のある取組として推し進めていくための体制強化が図られる。

2. 戦略的分野拡充ポイントの構築・活用

学長のリーダーシップの下、優秀な人材を確保し、限られた人的資源の戦略的な配置をより一層推進するためのドライビングフォースとして「**戦略的分野拡充ポイント**」の枠組みを構築した。①「つくば・トップ・ランナー(優秀な若手教員の早期昇任人事)」、②「機能強化経費の効率的活用」、③「新分野開拓・後任不補充の解消」を「3本の矢」に、持続的な組織強化と教育研究機能の向上を目指す配分計画を策定し、平成29年度より運用を開始している。

3. 全学SD研修会ネットワークング・ワークショップの開催

グローバル・スタッフ育成室による英語研修・各種SDセミナーの一環で、日頃から連携関係にある東南アジアの大学(7カ国・20大学)から23名の教職員を招き、本学教職員との情報共有・意見交換の場として、**全学SD研修会ネットワークング・ワークショップ「大学のグローバル化を考える」**を開催した。使用言語は全て英語であり、グローバル化する大学の課題解決をテーマに活発な意見が交わされ、本学のみならず東南アジアの事務職員の高度化・グローバル化に資する有意義な議論が行われた。



筑波大学SD研修会ネットワークング・ワークショップ
「大学のグローバル化を考える」(H30.2.13)

教育改革関連

1. 地球規模課題学位プログラム(学士)第一期生を受入

分野を超えて地球規模課題に取り組むことのできるグローバル人材の養成を目的に新設した、学士課程・文理融合型の**地球規模課題学位プログラム(英語プログラム)**に10月より**第一期生6名が入学**した。(国籍:台湾2名、韓国・中国・インドネシア・ネパールより各1名)第一期生6名は、本学のCampus-with-Campus協定校である国際基督教大学(ICU)において、平成30年4月よりICUで一学期間のリベラルアーツ教育を履修予定である。

2. ボルドー大学、国立台湾大学との3大学ジョイントディグリープログラムが始動

我が国初の**3大学国際ジョイントディグリープログラム**として、国際連携食料健康科学専攻(修士課程)(GIP-TRIAD: International Joint Degree Master's Program in Agro-Biomedical Science in Food and Health)を人間総合科学研究科に開設した。本専攻では、CiC協定校であるボルドー大学、国立台湾大学の学生と本学の学生がともに、地球規模の課題である「食と健康」について学修する。9月より本学で第1セメスター(9月~2月)が始まり、ボルドー大学、及び国立台湾大学から学生を受け入れた。



GIP-TRIAD学生によるトーヨーエネルギーファーム
ソーラーシェアリング・営農型発電施設の見学ツアー

教育改革関連（続き）

3. マレーシア日本国際工科院(MJIIT)とのジョイントディグリープログラムを開設

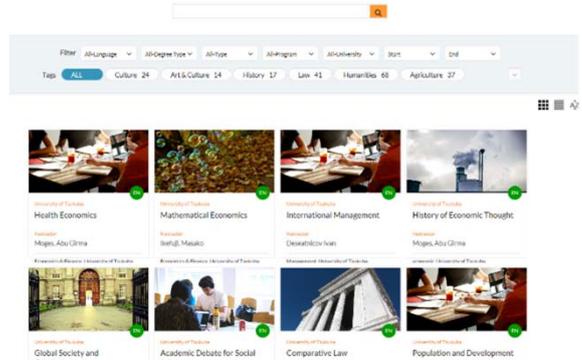
マレーシアにおいて工学系人材を多く輩出する研究重点大学のひとつであるMJIIT(本学のCiC協定校の一つであるマレーシア工科大学の下に設立)と連携し、**国際連携持続環境科学専攻(博士前期課程)**を**生命環境科学研究科**に開設した。これは環境科学基礎、環境技術、社会実装の3つを柱とした**国際ジョイントディグリープログラム**で、修了生は理学、農学、工学、社会科学等の専門的かつ俯瞰的な洞察力を持って地球規模の環境問題に取り組み、持続可能な社会の実現に寄与することのできる人材として活躍が期待される。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

□ 科目ジュークボックスシステムの充実とユーザビリティの向上

科目ジュークボックスシステムに筑波大学から約900科目を新たに追加するとともに、国立台湾大学から約380科目、ボルドー大学から約370科目、サンパウロ大学から約100科目、マレーシア工科大学から約90科目の提供科目を新たに登録・公開し、**計約2,000科目へと科目数を大幅に拡充**した。また、科目の検索機能やリスト表示機能、各CiCパートナー大学による編集機能等を追加し、システム全体のユーザビリティの向上を図った。

これにより、各CiCパートナー大学の学生に対する留学への動機づけが促進されるとともに、広く社会における本事業ならびにCiCの取組に対する認知度が向上することが期待される。



科目ジュークボックスシステムにおける検索機能の追加
<https://cj.tsukuba.ac.jp/courses/>

■ 国際的評価の向上につながる取組(タイプAのみ)

1. つくばグローバルサイエンスウィーク2017(TGSW2017)を開催

9月25日から27日の3日間、つくば国際会議場において、**Tsukuba Global Science Week 2017 (TGSW2017)**を開催した。8回目となる今回は、世界48か国、158機関から320名近い発表者と、実数で1,800名を超す来場者を迎え、海外の協定校や筑波研究学園都市に所在する研究機関との共同主催を含む47のセッションが行われた。

2. TSUKUBA index 1.0 の公表

筑波大学が独自に開発したiMD (index for Measuring Diversity) の算出結果一覧として、**TSUKUBA index 1.0**をウェブ公開した。今回公開されたのは、筑波大学人文社会系の教員が2015年ならびに2016年に投稿した主な学術誌、及びWeb of Scienceから選んだ200誌(データ提供:クラリベイト・アナリティクス)のiMDであり、学術誌の多様性を測る一助となる。世界大学ランキング等に用いられているデータベースに収録されていない学術誌は、従来評価の対象となっていなかったが、iMDによって言語・国を問わず、すべての学術誌を定量的に評価することが可能となる。

3. 世界大学ランキング

2018年版のQS世界大学ランキングの分野別の評価において、**スポーツ関連分野で25位、図書館情報マネジメント分野で37位**にランクインした。また創立50周年未満のQS世界大学ランキングでは20位にランクインしている。

【海外の大学との連携の実績(タイプAのみ)】

平成29年度より、CiCパートナー大学であるユトレヒト大学から、新たに**物理学分野の教育研究ユニット「Quark Gluon Plasma Research Unit」**を招致した。これにより、平成29年度までに招致された教育研究ユニットは、構想調書に掲げた目標を上回る累計8ユニットとなった。また、平成30年3月には、CiCパートナー大学以外から招致された教育研究ユニット(米国エモリー大学との共同研究事業による「Social Neural Networks Research Unit」)も含め、平成29年度に招致された2ユニットがキックオフシンポジウムを開催した。

■ 自由記述欄(取組について自由にアピールしてください)

1. Campus-with-Campus 協定を通じた更なるトランスボーダー化の推進

本学では、本構想の中核をなす「Campus-in-Campus」の考え方を、教養教育や専門分野において相補的な連携を行う国内大学等に当てはめた発展的な取組として「**Campus-with-Campus(CwC)**」協定を、リベラルアーツ教育に強みのある国際基督教大学(ICU)及びダイバーシティ推進を牽引するお茶の水女子大学と締結している。このCwC協定に基づき、平成30年4月からのICU学生の本学における卒業研究指導受け入れの準備を進めるなど、更なるトランスボーダー化の推進に取り組んだ。

2. グローバル高専指定校との連絡協議会を開催

本学と、国立高等専門学校機構(以下「高専機構」)から指定されている全国の**グローバル高専(GCT)指定校9校**による第1回連絡協議会を、高専機構関係者も交えて11月9日に開催した。

本協議会は、グローバル高専と本学が連携して、教育研究・人材育成・グローバル化等を進めることを協議するために設置されたもので、今後、相補・発展的な連携方策の企画・立案を通じ、高専のグローバル化の推進にも寄与するとともに、GCTとSGU、更にはスーパーグローバル・ハイスクール(SGH)との互恵的連携が期待される。



グローバル高専指定校と本学との連絡協議会 (H29.11.9)